

# 静岡松涛タイムス 第49号

発行元：静岡県本部広報部 責任者：滝田宏平

連絡先：0537-36-1238(TEL) 0537-36-1293(FAX)

E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp

URL： <http://www.shizuoka-karate.com/> (公式 HP)

<http://www4.tokai.or.jp/sougou/> (広報部)

Photo：さつき

## 第12回瀧本杯空手道焼津練成大会



桜も少しづつ花開き、春の日差しを受けながら平成 23 年度の初月、4 月 3 日(日)に「第 12 回瀧本杯空手道焼津練成大会」が焼津市民体育館にて行なわれました。今回は、東日本大震災後の大会という事もあり「心は 1 つ、ガンバろう日本！」をスローガンに開催されました。試合前に、来場者全員の方に起立していただき、震災にて亡くなられた方々に 1

分間の黙祷を捧げた後、試合開始となりました。本大会は、焼津市に於きましては、たいへん歴史のある大会の 1 つであります。競技種目を増やし、多くの生徒に出場していただける大会として毎年開催しております。本年は、焼津支部と西焼津支部誠空館での開催で、基本・型・組手競技に、幼年から一般まで、約 110 名の参加があり大会を盛上げました。焼津港支部の中島忠支部長の健康上の理由による休部中という事もありましたが、支部長は役員として協力していただきました。本大会にて試合デビューした幼年選手も多く、緊張した様子が伺えましたが、競技が進むにつれて緊張もほぐれて、普段の顔に戻り、平安型や基本技・一本組手を、大きな気合で頑張っやり遂げ、午前の部を終了する事ができました。今回より、新たに一般の部を設け、こちらも多数の参加がありました。まだ無級と 10 級者のみですが、初めて試合をして、良い勉強になった事と思います。午後の試合前に、車椅子空手の「型」に加え「組手」の披露を行ないました。演武する選手は、西焼津支部所属の岡村好幸氏です。氏は右半身にハンデを持っておられますが、人一倍練習熱心で、毎週欠かさず稽古に励んでおられます。昨年は、中部地区大会にて、見事優勝いたしました。車椅子空手と出会えた事を心から喜び、現在では明るく活気のある生活を楽しんでいるとの事です。会心の気迫で「五輪」の型と初級組手を終えると、コート周りの選手やスタンドの皆様より「感動をありがとう！」という大声援と共に大きな拍手が鳴り続き、岡村氏もホッとした表情に戻りました。午後の組手試合も、岡村氏の車椅子空手よりパワーをもらい、ケガも無く元気良く終了する事ができました。また、大会を陰で支えてくれたスタッフの皆さんや、審判を務めていただきました先生方、紙面をお借りしまして心より御礼申し上げます。参加した選手達は「次の県大会をがんばろう！押忍」と声を掛け合いながら会場を後にしました。「今を頑張ろう！一生懸命に」は私の最も好きな言葉の 1 つです。今回も試合会場に選手達が「青春」という名の大輪を咲かせてくれました。私も花の香りを肌で感じながら会場に一礼して帰路に着く事ができた、とても気持ちの良い一日でありました。最後になりますが会場の大勢の皆様より、3 月に深刻な被害をもたらした「東日本大震災」の被災者様や被災地復興に少しでも役立てばと、災害義援金 18,044 円を集める事ができました事を心より御礼申し上げます。ありがとうございました。皆様よりお預かりした災害義援金は静岡新聞社(4 月 7 日静岡新聞に掲載)を通じ被災地に届ける事ができました。(レポート：西焼津支部誠空館 増田 誠二)

## 県本部主催指導者講習会・指定選手強化練習



4 月 24 日(日)に静岡市北部体育館にて、静岡県指導者講習会、及び静岡県指定選手強化練習が行われました。指導者講習会では、「車椅子空手」の実技指導を中心に、基礎的な操車法から、応用しての型・組手まで、受講者全員が実際に車椅子に乗車して行なわれました。受講者も前回開催より、少し慣れてきた様子が伺われ、まだまだごこない受講者が多

い中にも、スムーズに操車できる方も増えてきました。また、本年度より指定選手制度が設けられ、昨年の県大会にて三位以上の入賞者と、それに準ずる実力を有する選手が支部推薦にて、別室で強化練習を行ないました。県本部指導陣による、たいへん密度の高い練習となりましたが、普段上位を争っている選手同士だけに、練習にも熱が入っておりました。午後からは実戦形式の練習試合が行なわれ、選手は午前中に指導されたポイントを試すかのように、何試合もこなしておりました。その練習試合と平行して、審判講習が開設され、判定の基準やポイント等が再確認されました。いよいよ6月の県大会を皮切りに、東海北信越大会や全国大会が控えております。指定選手のみならず静岡県の選手には、是非活躍していただきたいと願っております。(レポート：清水支部烈士館 上條 康光)

## 絶望から希望へ！我が人生第2章のスタート



「何もかも諦めて途方に暮れていたんです、これ(車椅子空手)に出会うまではね」と話してくれたのは、西焼津支部誠空館(増田誠二支部長)に所属する岡村好弘さんです。岡村氏といえば、昨年の中部地区大会車椅子部門で見事優勝し、今後の活

躍が期待される選手であります。今回、岡村氏の稽古の様子を取材に、5月14日(土)に西焼津支部小屋敷道場を訪問いたしました。道場入口に立つと、扉の向こうから子供達の気合とは明らかに違う気迫充分の気合が響いてきます。一礼し道場に入ると、幼年から一般までの道場生全員が、増田師範の号令に合わせ、基本稽古を行なっておりました。その中に岡村氏の姿を見つけました。額に大粒の汗を浮かべ集中しているその姿は、車椅子に乗車している以外、健常者と何ら変わりがありません。師範は全体を周りながら、1人1人をチェックし、指導しています。基本稽古を終えると、小休止をはさんで車椅子の稽古となりましたが、これも道場生全員で行ないます。最前列中央に岡村氏を配置し、初輪の型を師範の号令と共に流します。途中、何度も中断し岡村氏に指導が入ります。穏やかな口調ではありますが表情は厳しく、岡村氏も真剣に聞き入っておりました。岡村氏は休憩時間にも道場横の通路にて、つい先ほど指導された箇所を反復しておりました。一段落ついた頃に岡村氏とお話をする機会がありました。「若い頃から体育会系で、身体や体力には絶対の自信があったんですよ。ですから突然の病を受け入れる事ができませんでした。地方でリハビリを受けてから静岡に戻ってきたのですが、人前に出るところか人と会うのも嫌になってしまったんです」と病に倒れた時の心境を話してくれました。「本当に偶然ですが車椅子空手の存在と、それが地元で活動している事を知りました。初めて目にした時、心の中の鎖がはずれ『これに賭けよう』と心に誓いました。これがきっかけです」と、入門のきっかけを教えてくださいました。さらに「増田師範には心から感謝しているんです。指導は厳しいですが、しかし私を一般の人と同等に見てくれている事、好きな事に没頭できる喜びを改めて教えてくれた事、この身体のハンデをチャンスに代えてくれた事など、どれをとっても感謝しきれません。病に倒れた時に、家族にはとても心配を掛けました。身近の世話はもちろんですが、車椅子空手に入門し、毎回道場への送迎もしてくれました。私の最大の理解者であり支援者なんです」と、嬉しそうに話してくれました。「そうそう、もう1つ良い事が、道場の雰囲気や元気一杯の道場生に刺激されてか、家内も息子も、今では家族一緒に空手の稽古に励んでいます」と、現在ではファミリーで楽しんでいるとの事でした。「私は身体の動く限り稽古を積んでいこうと思っております。そして同じ境遇を持つ大勢の人達に、この車椅子空手を伝える事ができればと考えています。これが私の一生涯をかけての目標です」と、今後の目標を話してくれました。氏によれば、車椅子空手の稽古を続けているうちに、動かなかった右手が動くようになったとの事でした。その証拠に右手での操車ができるようになりました。増田師範の話では3年程前に重度の交通事故の後遺障害のリハビリの為に車椅子空手を始めた支部所属の田畑さんは、見事後遺障害を克服し、医師の許可の下、現在では通常の空手に励んでいるとの事でした。絶望を希望に代える術を身に着けた岡村氏、現在は6月の県大会をはじめ、夏に開催される東海北信越大会や全国大会に照準をあわせ、連日猛稽古に励んでおります。稽古の成果を存分に発揮し、活躍していただけますよう、心より願っております。(レポート：広報部 秋山 高士)

...お知らせ...

昇段審査受審時に必要な書類を県本部公式HPのフォ-マットコーナーに設置しました。必要に応じてダウンロードして下さい。(必須書類です。必ず受験票と一緒に提出して下さい) また、各種大会や支部活動等のイベントがございましたら、広報部まで一報下さい。(レポートと画像があれば、タイムスに掲載させていただきます)【広報部】